



地域子育て支援センター ひまわり

えほんのへや

絵本の読み聞かせ

ほぼ毎日、ボランティア団体や職員による、絵本の読み聞かせを開催しています。

手遊びやわらべ唄をまじえて、20～30分程度です。小さい子どもたちが対象なので、集中が続かないこともあります。それでも毎日続けることで楽しみにしてくださったり、家庭でも楽しんでいると聞くと励みになります。

※初めてセンターに来られた方が、えほんのへやに入って来られて、「わあ、本がたくさん」「ゆったりと落ち着きます」と言われます。実際の蔵書はそう多くないのですが、壁一面に絵本が面出しに展示されていることや、両側に窓のある明るい部屋が丸々図書室になっている事が功を奏しているのかもしれません。自慢できる環境です。

絵本の楽しみを知っている子は、次々に絵本をねだって読んでもらっています。まだ小さくて絵本の楽しみが分からない子でも、大人が焦ることなく、じっくりゆっくり、足並みをそろえて一緒に楽しむ事で絵本の世界に入っていけます。

読書は個人の趣味の一つに過ぎないかもしれませんが、読書の楽しみを知っているか知らないかでは、人生の幅が大きく違ってくるように思います。本を読む（読める）ということはパソコンで沢山の事を知る（知った気になる）こととは全く別のものです。

境港でブックスタートが始まって15年、赤ちゃんとお母さんと絵本を楽しむことの意味は、ブックスタートで、初めて絵本を手にしたお母さんたちの中で、少しずつ確実に育ってきていると、このセンターのえほんのへやにいて感じています。

地域子育て支援センターひまわり「えほんのへや」

職員・大西明美

